

# **IATF 16949 内部監査 | 箇条8.4.1.2供給者選定プロセス**

## **IATF 16949 audits | How do I: Audit supplier selection**

<https://www.youtube.com/watch?v=Qkm3xfhzsMU&t=15s>

## 【内部監査で見つかった問題点】

組織は、新規供給者を選択する際にVDA 6.3を使用し、その選択プロセスは適切に行われていました。しかし、監査員が問題として指摘したのは、供給者選定のプロセスが文書化されていなかったことです。組織は選定プロセスを行っていましたが、そのプロセスを明確に文書化し、そのプロセスが組織の品質管理システム内で明示的に記述されていなかったため、この点がIATF16949の要求事項に準拠していなかったのです。

IATF16949:2016に合致できていない箇条は8.4.1.2で、ここでは供給者選定について文書化されたプロセスが必要とされています。

## 【内部監査で見つかった問題点の改善策】

組織は、供給者選定のプロセスを文書化する必要があります。形式は特定のものを必要としないが、品質管理システムの範囲内でプロセスが明確に記述され、すべての関係者が参照できるようにする必要があります。

## 【ISO19011の観点からの問題点】

監査員は、改善の機会として指摘するべきだったこの状況を、誤って不適合と記録しました。

## 【ISO19011の観点からの改善策】

監査員は、監査結果の記録方法と改善の機会と不適合の違いを理解する必要があります。この場合、監査員は不適合と記録すべきだった文書化されていないプロセスを、誤って改善の機会として記録しました。

## 【主な学習ポイント】

IATF16949の特定の要求には、文書化されたプロセスが必要です。品質管理システムの範囲内でプロセスを明確に記述することが重要です。

また、顧客固有の要求は、プロセスアプローチの監査に統合されるべきであり、単独で監査されるべきではありません。

## 箇条8.4.1.2 供給者選定プロセス

☑組織は、**文書化した供給者選定プロセス**をもたなければならない。

☑選定プロセスには、次の事項を含めなければならない。

- a. 選定される供給者の製品適合性及び顧客に対する組織の製品の途切れない供給に対するリスクの評価
- b. 関連する品質及び納入パフォーマンス
- c. 供給者の品質マネジメントシステムの評価
- d. **部門横断的意思決定**
- e. 該当する場合には、必ず、ソフトウェア開発能力の評価

ほかにも供給者の選定基準には、次の事項を考慮することが望ましい。

- 自動車事業の規模（絶対値及び事業全体における割合）
- 財務的安定性
- 購入された製品、材料、又はサービスの複雑さ
- 必要な技術（製品又はプロセス）

## 箇条8.4.1.2 供給者選定プロセス

- 利用可能な資源（例 人材、インフラストラクチャ）の適切性
- 設計・開発の能力（プロジェクトマネジメントを含む。）
- 製造の能力
- 変更管理プロセス
- 事業継続計画（例 災害への準備、緊急事態対応計画）
- 物流プロセス
- 顧客サービス

## 箇条8.4.1.2 供給者選定プロセス

1. ISO9001の供給者選定の要求レベルを超えて、より具体化した。
  - a. 事業継続におけるリスク分析。
  - b. 供給者の実績に関する情報。
  - c. ISO9001 or IATF16949が前提。
  - d. 購買部門のみの意思決定ではなく、全関連部門の意思決定。
  - e. ソフトウェア開発を要求する場合。
2. 規格の要求の意図は「初回選定」の際の要求であるが、都度「2社購買」の際の選定に活用することも有効である。
3. “望ましい11項目” は、取引上必然的に評価する場合がほとんど。
  - 経営状態は？ この精度の加工ができるか？ 予定月産数は可能か？
  - 人材？ BCMの観点？ 物流条件（立地条件）？

# 内部監査-登場人物



Confidential

ミツイ精密株式会社



**Paul : 進行**



**監査員**



**供給者品質マネージャー**



# 内部監査-現場会話

- Paul : このビデオでは、監査員が組織の新規供給者選択プロセスの効果的な実施を監査しています
- Paul : 監査員は、供給品質マネージャーを監査しています
- Paul : この組織は、自動車供給チェーンにおけるTier2（二次供給者）です
- Paul : このビデオを見て、監査員がこのプロセスを効果的に監査しているかどうかを判断してください
- 監査員 : 新規供給者を選択するプロセスを説明していただけますか？
- 供給品質マネージャー : はい、我々は問い合わせ票を送ります。供給者のプロフィールを問い合わせるための質問票を送り、それらの情報を収集します。例えば、認証のレベルについての質問を含めます。それが我々が契約した最新の供給者の例です。
- 監査員 : 質問票を受け取ったら、何をしますか？
- 供給品質マネージャー : 質問票を受け取ったら、内部でそれを見直します。我々は、実際に供給者の訪問が必要かどうかを決定するために、それを見るチームを持っています。
- 供給品質マネージャー : 先ほど示したケースでは、彼らはISO9001の認証を持っていたので、我々は訪問することに決定しました。且つ、彼らはIATFの認証を持っていなかったため、その理由からも、我々は訪問することに決定しました。※1
- 監査員 : その訪問の報告書を見ることはできますか？
- 供給品質マネージャー : 今は手元にありませんが、VDA6.3の潜在的な分析ツールを使用しているので、オンラインで見せることができます。
- 供給品質マネージャー : このケースでは、我々はオーディットの基準を評価するために赤(重大な問題あり)、黄色(懸念点あり)、青(問題無し)の評価方法を採用しています。この評価結果から、今回は契約を進めることになりました。
- 供給品質マネージャー : それがオーディットの結果を示すスプレッドシートです。
- 監査員 : 供給者の監査の結果、8件の懸念点が確認されていますが、どれもマイナーレベルであった為、それは大丈夫だと感じました。ところで、今回監査でなぜあなたはVDA6.3を使用しましたか？



# 内部監査-現場会話

- 供給品質マネージャー** : それは我々のドイツの顧客がVDA 6.3のアプローチを使用することを求めているためです。我々はそれを非常に効果的なツールだと感じています。したがって、我々はすべての供給者の監査にこれを原則使用することに決定しました。
- 監査員** : VDA6.3の資格を持つのは誰ですか？
- 供給品質マネージャー** : 組織内には私を含む3人の資格を持つ監査員がいます。他の2人の名前を共有します。私たち3人全員がVDAの訓練を受けています。これは厳格な経験で、非常に厳しい5日間の資格取得プロセスでした。
- 監査員** : 供給者選定の文書化されたプロセスを見ることはできますか？
- 供給品質マネージャー** : 実際には、**我々は文書化されたプロセスを持っていません。VDA 6.3を参照するだけで我々の管理システム内に具体的に書かれたものは何もありません。**
- 監査員** : わかりました、この点を**改善のための機会**として記録する必要があります。あなたが教えてくれたこと、見せてくれたことは一般的には大丈夫ですが、システムに破綻がないことを確認したいと思います。
- 供給品質マネージャー** : わかりました。

# 内部監査-現場会話（まとめ）

- Paul** : このビデオからは、組織が顧客固有の要求を理解し、VDA 6.3を使用した供給者監査を含む二次監査員の使用要求を実施していることが明らかでした。
- Paul** : 監査員は、組織が顧客固有の要求をどのように特定し、伝達し、実施しているかを確認するべきでした。
- Paul** : 監査員は、8.4.1.2の供給者選定で定義された要求が満たされていることを確認するために、オーディットトレイルを追うべきでした。
- Paul** : この要求では、組織が文書化されたプロセスを持つ必要があります。
- Paul** : この例では、彼らはすべての活動を行っていましたが、プロセスが文書化されていませんでした。
- Paul** : 監査員は間違ってこれを改善の機会として書き込むでしょう。
- Paul** : 改善の機会には、関連する標準の要求事項に準拠している状況でなければなりません。
- Paul** : この状況では、文書化されたプロセスが存在しなかったため、これは不適合でした。
- Paul** : 主な学習ポイントをまとめてみましょう。
- Paul** : IATF16949の特定の要求事項では、文書化されたプロセスが必要とされています。
- Paul** : これらは別々のプロセスである必要はなく、特定の形式である必要もありませんが、重要なポイントは、それらが組織の品質管理システムの範囲内で文書化されていなければならないということです。
- Paul** : 顧客固有の要求は、プロセスアプローチの監査に統合されるべきであり、独立して監査されるべきではありません。

## 主要な学習ポイント

IATF16949の特定の要求には、文書化されたプロセスが必要です。これらは別々のプロセスである必要はなく、特定の形式である必要ありませんが、品質管理システムの範囲内で文書化されていないことが重要です。

## 主要な学習ポイント

顧客固有の要求は、プロセスアプローチの監査に統合されるべきで、単独で監査されるべきではありません。

### ※1

供給品質マネージャーの発言からは、ISO9001の認証を持つ供給者に対しては、訪問することを基本的なポリシーとしているように見えます。これはISO9001が品質マネジメントシステムの国際標準であり、その認証を持つ企業は一定の品質管理能力を持っていると認められているため、その品質管理体制を確認するための訪問が必要であると考えられるからです。

一方で、IATF 16949の認証を持っていない場合にも訪問を行うとの発言があります。IATF 16949は、自動車産業の特性を反映した品質マネジメントシステムの国際規格で、ISO9001を基にしながらもより厳格な要求事項が含まれています。この認証を持っていない場合は、特に自動車産業に特化した要求事項に対する対応が不十分である可能性があるため、その評価のための訪問が必要であると考えられます。

したがって、供給品質マネージャーの発言からは、ISO9001の認証を持つか、IATF 16949の認証を持たないかのいずれかの理由で供給者訪問を決定すると理解できます。